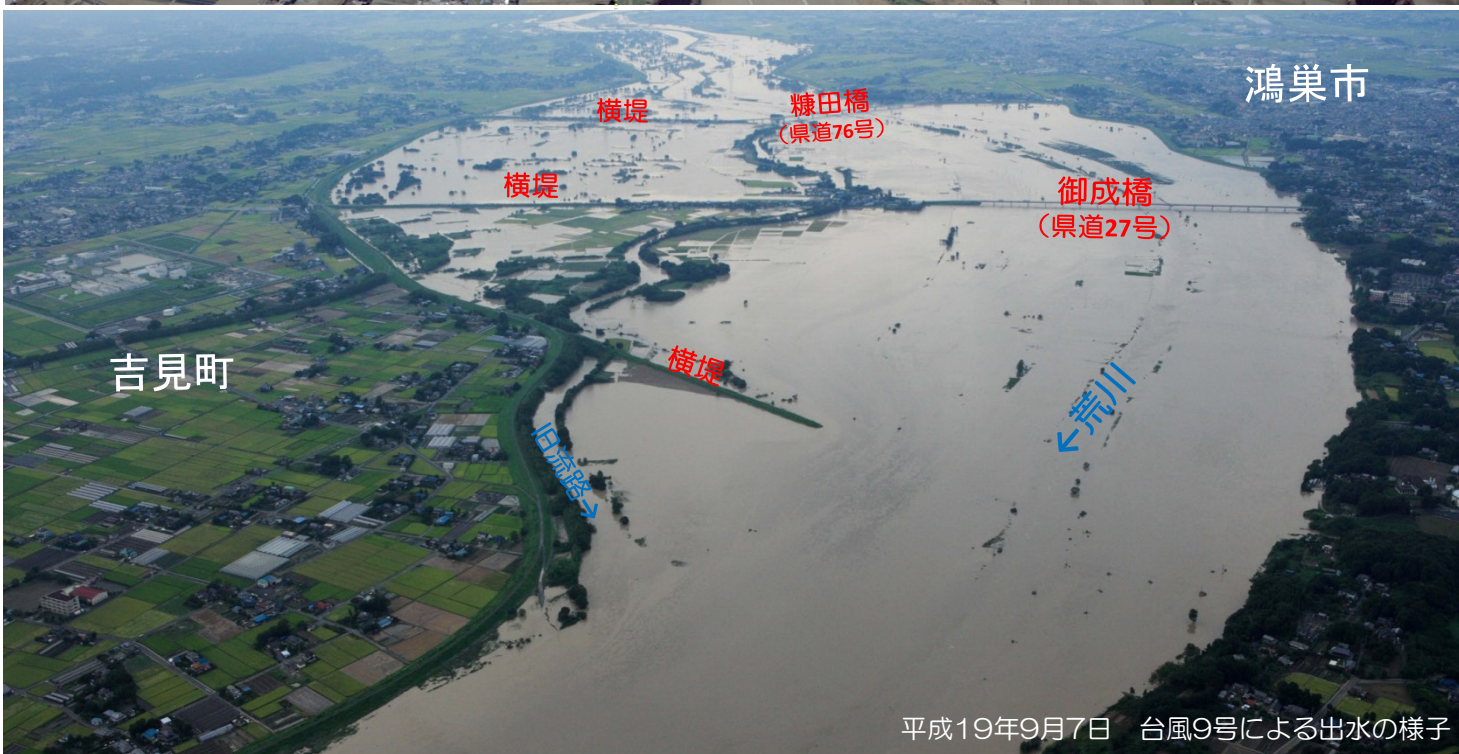
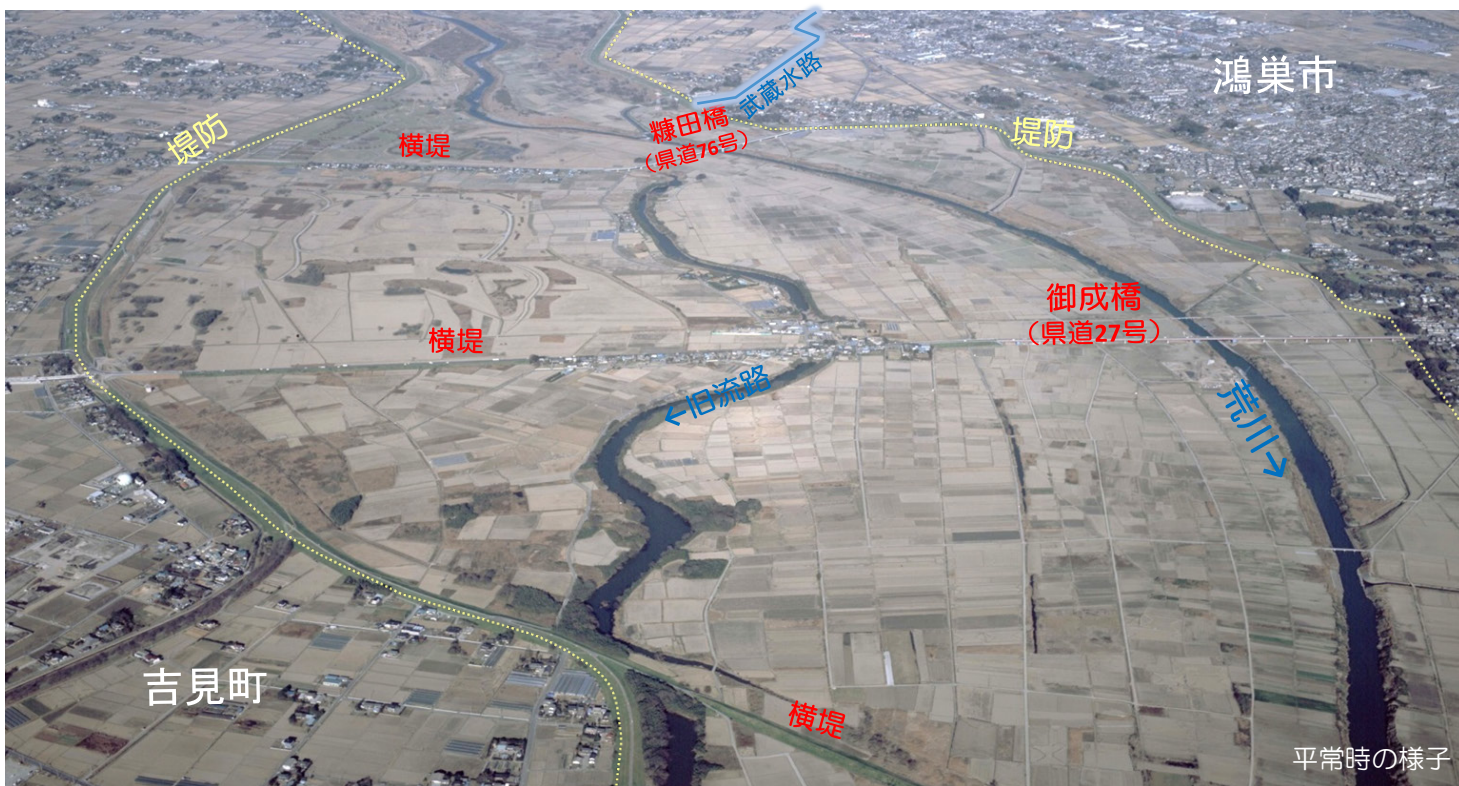


洪水を受け止める横堤

～広い川幅を活かす～

荒川の中流部は広い川幅が特徴ですが、堤防や川の流れに直角方向に堤防がいくつも築かれており、広い川幅に洪水を効果的に貯めさせています。

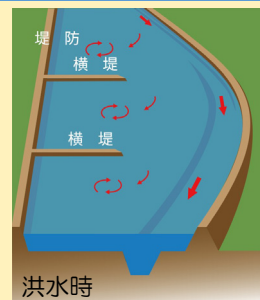
荒川上流部改修から
100年
1918-2018



横堤とは

通常の堤防に対し直角方向に築かれた横堤が、荒川中流部には25箇所（左岸14箇所、右岸11箇所）あります。約100年前に始まった荒川上流部改修によって整備されたもので、広い川幅とあわせて荒川の中流部の特徴になっています。

横堤は、上流からの洪水流が及ぼす下流への被害を最小限に防ぐための調節・遊水機能を果たすほか、流速を軽減させて高水敷や耕作地を保護する役割を担っています。



▶ 今も役割を果たす25箇所の横堤

1929（昭和4）年に着工された横堤の工事は、第二次大戦中に一時中断されたものの、1951（昭和26）年に完成しました。

吉見町糠田橋付近から戸田市笹目橋付近の約35キロの区間に、左岸14箇所、右岸13箇所の計27箇所の横堤が設けられましたが、現在は25箇所となっています。また、道路や鉄道の橋の一部としても利用されています。



吉見町糠田橋付近から戸田市笹目橋付近の横堤位置図

特に、吉見町明秋と同町古名新田には、規模の大きな横堤が整備されました。改修後には洪水の被害を受けやすい北側を避け、南側を利用した集落が横堤の脇に並ぶことになりました。

荒川の右岸堤防からほぼ直角に約1.7キロにわたって築造された古名新田の横堤も、現在では道路が走り、河川敷は水田や畑、ゴルフ場やグラウンドに活用されています。横堤の姿からは、川とともに生きてきた人間の知恵が感じられます。



吉見町明秋の横堤（H25冬撮影）



吉見町古名新田の横堤（H25冬撮影）

コラム 土木遺産に選定された横堤

土木学会選奨土木遺産とは、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、平成12年に認定制度を設立されたもので、推薦および一般公募により、年間20件程度が選出されています。「荒川横堤」は平成20年度に土木遺産に選定されました。

選奨年度 平成20年度

選奨理由

荒川の横堤は高水調節を行うため、河道内に本堤から横方向に築いた堤防で、荒川独特の施設である。

